

四万十川すみずみツーリズム

四万十川すみずみツーリズムは、四万十川を上流から下流、すみずみまで巡ってほしいという願いから平成21年に正式発足しました。個人で経営する農家民宿や農家レストラン、それから体験施設などがこの団体加入到して活動しています。発足当時は23件であった施設も、5年目を迎える今年度は約1.5倍の36施設になり皆で力を合わせ、流域の振興とその地域での暮らしを守っています。

普段ホテルや旅館などを利用している方々にとって、農家民宿や農家レストランと聞くとちょっと馴染みがないように感じるかもしれません。1日に1組だけしか泊まらないお宿も多いですし、お料理もシェフが作るわけではなく会員さんの手作りです。施設に行くまでには少し不安になるようなくねくね道を抜けなければなりません。

ですが、そこには言葉では言い表すことのできない魅力があります。それは、行ってみた人にしか分からない穏やかな時間と四万十ならではの楽しさ。その魅力を感じた人たちが、“また逢おうね”と約束して帰っていくような、そんな場所がすみずみツーリズムにはあるのです。



「私が地域から大根を買くと、取引先のおばあちゃんはそのお金を孫のお小遣いにするんだと嬉しそうに話す。そしてそれがまた自分にとっても嬉しいんだ」
 「もともと川で遊ぶことが好きでね。いろんな人に川遊びの楽しさを知ってもらいたいし、自分も一緒になって遊びたい」
 「歳もとったし得意なことはなにもないけれど、お客様が四万十でゆっくり過ごして笑顔を見せてくれることがすごく嬉しいからこれからも続けていきたい」
 「四万十っていいところ。それをもっといろんな人に伝えていきたい」

会員さんの思いは様々ですが、共通して言えることは『自分の住んでいる地域が大好きで、誰かのために何かができることがすごく嬉しい』ということ。まさにおもてなしのプロなのです。そんな気持ちが伝わるからこそ、訪れた人は心を奪われるのでしょう。また、四万十の雄大な自然を頭ではなく体で感じられることも、普段はできないような体験ができることも、機械的な日常から離れて安らげることも、もちろんすみずみツーリズムの魅力です。

会員さんはすごく謙虚に「こんな田舎によう来たねえ。何も無いけどゆっくりしていきや」と言いますが、そんなことはありません。実はそこにあるのは質の高いものばかり。教えてくれる川遊び、案内してくれる森の中一つをとってもそこに住む人だからこそできるもの。お料理にしても、一見地味そうに見える地元の旬の食材を見事な逸品に仕上げます。お宿もとても手入れが行き届いて、清潔で自然と調和した癒しの空間になっているのです。

スタンプラリー始めました

結成以来、お客様が迷わないように統一看板を設置し、HP や MAP も作成してきたすみずみツーリズム。せっかく MAP を作ったのだから是非やってみたいね！と2年前から意見を出し合っていたスタンプラリーをようやく今年実施することになりました。専門家がいないわけでもなく、地域の人たちだけで企画し、デザインし、作り上げてきたスタンプラリーについて、この場を借りてご紹介させていただきます。

四万十川すみずみスタンプラリー

期間：平成 25 年 10 月 19 日～平成 26 年 5 月 31 日

応募方法：すみずみツーリズム加入施設をご利用ごとに1つスタンプがもらえます。宿泊か体験いずれか1つを含めた合計5つのスタンプを集めてください。ただし、押印は1施設1回のみです。応募はがきに必要な事項を記入して切手を貼ってポストに投函すると、抽選ですみずみクーポンが当たります。



1等	すみずみクーポン	5000円	1本
2等	すみずみクーポン	3000円	3本
3等	すみずみクーポン	1000円	5本

各施設についての詳細はHP や MAP をご覧ください。[\(http://shimanto.or.jp/GT/\)](http://shimanto.or.jp/GT/) ちらしはこちらから。[すみずみスタンプラリー応募用紙.pdf](#) [MAP.PDF](#)



目的は何なのか。誰をターゲットにするのか。景品はどうするのか。スタンプはどうやって作るのか。

4月に行われた総会から夏の繁忙期を挟んで約半年。集まれる時間を見つけては話し合いをし、幾度となくメールや電話で連絡を取り合い、ようやくここまでたどり着きました。作業自体を振り返ってみると、箇条書きにして並べてみると、そんなに大したことはないのかもしれませんが、そこに地域を大切に思う住民の想いと努力の結晶が詰まっています。少しでも興味を持たれた方は是非この機会にすみずみツーリズムの施設を訪れてみてくださいね！



平成 25 年度全国文化的景観地区連絡協議会四万十大会



10月4日・5日の2日間にわたって、全国文化的景観連絡協議会四万十大会が四万十市にて開催されました。この大会は、文化的景観の保存・活用の意識及び今後の在り方をともに考え、次世代に引き継いでいくための方策を検討・協議するために毎年開催されています。



四万十川の重要文化的景観については全国で唯一5市町が連携しているということで、当財団の神田事務局長が四万十を代表して流域連携に関する事例報告を実施。連携するメリット、そしてこれからについて熱く語りました。

また、中越先生や文化庁の方の貴重なご講演、参加者も交えたパネルディスカッションも行われました。夜の懇親会では皆が驚く高知方式で来た人から順にお酒を交わし、終始和やかな雰囲気でも会場も賑わいました。

2日目は2コースに分かれての現地視察。あいにくの雨でしたが、皆さん十分に四万十を感じていただくことはできたでしょうか。ご遠方の中お越しいただいた皆様どうもありがとうございました。今後とも四万十川流域の重要文化的景観についてご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。